

補助金対象事業報告書(平成25年度)

団体名	特定非営利活動法人たすけあいワーカーズさざんか (平成 12 年 10 月設立)
事業名	知的障がいを知ってもらおう～「空想劇場～若竹ミュージカル物語」上映会
事業(該当区分に)	1. 活動促進事業 2. 協働事業 3. 若者活動事業 4. 地域活動チャレンジ事業

1 事業の目的

目的	団体設立以来のミッションである障がい者支援の事業として知的障がいのある若者たちがミュージカルの舞台に立つまでを追ったドキュメンタリー映画の上映を行う。これを通じて知的障がい者への理解啓発という機会を杉並区民に提供したい。
----	--

2 事業の実施状況

	事業計画	事業実施結果
実施状況	実施対象者・対象人数(延べ人数) 杉並区民を中心として360名(定員)	一般:76名 学生:7名(すべて小学生以下) インフルエンザやノロウイルスが猛威をふるう時期であり、また各試験と重なり、学生は不特性多数の場所への外出を控えるということもあり、開催の時期設定に反省点があった。しかも当日は45年ぶりとも言われた大雪の日。一部バスも運行不能となった。
	実施内容 知的障がい者についての理解を啓発することを目的に映画「空想物語～若竹ミュージカル物語」の上映会を実施する。360名を定員とし、うち100名を学生(大学生以下)の招待枠とする。(招待以外は有料@500円)上映前にトークショーを行い、主催者挨拶とともに当団体が行っている障がい者福祉サービスについての話、ガイドヘルパーという仕事の話をし、またこの作品の監督のミニ講演も行う。	知的障がい者についての理解を啓発することを目的に映画「空想物語～若竹ミュージカル物語」の上映会を実施した。当初、学生は100名を招待枠としたが、枠を設けず、学生は無料ということ呼びかけた。知的障がいについての理解啓発を目的に、上映会後、会場を別会場に移し、監督、若竹ミュージカルの出演者8名を招き、軽食を提供し交流会を開催した。監督には交流会の場で撮影にまつわるミニトークをしていただいた。
	実施場所 西荻地域区民センターホール	西荻地域区民センターホール
	実施回数・スケジュール 8月:実行委員会立ち上げ、映画配給会社に上映申込み 9月:第1回実行委員会(広報・宣伝方法について) 10～12月:広報宣伝活動(中学・高校への働きかけ、障害者団体への協力要請、マスコミへの働きかけ) 2014年1月:上映会開催	9月:実行委員会立ち上げ、上映を申込み 10月:第1回実行委員会開催(以降、上映会当日までに視聴を含め4回の会議を開催) 12月～:広報宣伝活動開始(チラシを作成し、区内施設や学校に設置。次世代をターゲットとして、ゆう杉並にも置かせていただく。) 2014年2月15日:映画上映会を実施
	実施体制(従事した人員数・設備等) 実行委員会(当団体のメンバー5名)で進行管理 上映会当日は当団体や地域の人20名体制のボランティアで実施	5名のメンバーによる実行委員会で進行管理。主に、広報の方法などについて話し合った。当日は、主に当団体のメンバー(10名体制)で実施。
自己評価	<p>事業は当初の予定どおり実施できましたか。</p> <p>知的障がいについて理解を啓発するという目的においての映画上映会は、大雪というアクシデントに見舞われながら予定どおり実施することができた。また、当初、映画上映と同じ会場で、上映前にトークショーを開き、当団体の行っているガイドヘルプの仕事などについても紹介する予定だったが、時間的な都合で上映会場で上映とトークショーを行うことは無理であったので、同じ西荻地域区民センター内の別の集会室を確保し、上映会後に交流会を開催した。交流会参加者は50名。映画に出演されていた若竹ミュージカルの出演者8名参加され、映画に出演しての思い出などを語られ、障がいがあっても脚光をあびてイキイキとされている様子に触れ、それまで知的な障がいのある方とふれあう機会のなかった方たちにとっては、新しい体験をする場となった。</p> <p>(自己評価)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった</p>	

3 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。	
	当団体では、2003年に区の委託事業として「知的障害者ガイドヘルプサービス事業」を受託し、実施した。その前年に、知的障がい者の社会参加支援としてのガイドヘルプ事業のPRを「able」という映画を通して行った。あれから11年経つが、ガイドヘルパー業務に就くヘルパーからは、交通機関のなかで残念ながら知的障がいのある方に無理解な目が向けられることがまだまだ多いことが報告される。障がいについて知る機会、障がい者と交流する機会があれば無理解は軽減されていくのではないかと考えた。	今回、アンケートをとった。来場者76名のうち回答者、31名。「この映画を見て知的障がいのある人への認識が変わりましたか？」という設問で「大いに変わった」「少し変わった」と回答したのが26名。回答者の80%を50代、60代が占めていた。感想には「支えあっている素晴らしさを認識できた」「一人ひとりの喜びややさしさや悩みなど、知的障がいのある人の生活感がよくだされてよかった」「今は障がいなくても生きていくのが厳しい世の中。なかなか障がいのある方までの気づきができませぬ。これを機会にせめて気持ちだけでもこころがけたい」などと記されていた。鑑賞された方々の心に響いた、と言える。
	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> 概ねあった <input type="checkbox"/> あまりなかった <input type="checkbox"/> ほとんどなかった	
	地域の特性を活かした活動になりましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	知的障がい者のガイドヘルプ事業などを行い、知的障がい者の社会参加支援をミッションとしている当団体だからこそ、このような映画の上映会を開催し、障がいへの理解を啓発する。	上記で紹介したアンケートに寄せられた感想の一部が示すとおり、障がいへの理解啓発については成果があった、と言える。また、上映会後の交流会では、軽食として杉並区内の福祉系(自立と就労支援を支える)パン屋3店舗のパンを提供。そのうちの1店舗で働いている当事者も交流会に参加し、自分はそこで働いているというアピールもあった。映画を上映し、それだけで知的障がいについて理解を得るだけでなく、交流会で実際にパンを召し上げていただくということを通して、障がいがあっても自立をめざす姿を伝えることができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった	
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
	映画を見ていただくことで、知的障がいについて知っていただく機会を区民に提供することができる。さらには、中高生、大学生の招待枠を設けることで次世代を生きる人たちが知的障がいについて理解するきっかけを提供できる。また、事前のトークショーで知的障がい者の方たちの社会参加支援を行うガイドヘルパーという仕事を紹介できるためガイドヘルパーへの理解を深められる。	映画を見ていただくことで、知的障がいについて知っていただく機会を区民に提供することはできた。次世代の人たちに知的障がいについて理解を深めてもらう機会となることをめざし、中学校の先生がたに話をしたり、チラシを貼らせていただいたりしたが、中・高・大学生の観客はなく、この点については効果をあげることはできなかった。事前のトークショーは時間的に開催が無理だったので、上映会後に交流会を開催。映画に出演していた方々が参加してくださり、障がいがあっても、いきいきと自己実現を果たされている様子が伝わった。このとき参加された障がい者の方たちは、移動にあたっては支援の必要のない方だったこともあり、ガイドヘルプのことについて紹介するのは違和感があり、それは行わなかった。しかし、障がいのある方たちが働くパン屋のパンを提供し、知的障がい者の自立と就労の支援について一端を紹介することができた。今後、障がい者にかかわるボランティア活動をしたいという声もあった。
<input type="checkbox"/> できた <input checked="" type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
さざんかのメンバーは3枚、チケットを買うこととし、それを家族、友人、知人に紹介することとした。さざんかが知的障がい者の社会参加支援をミッションとしてきたこととともに、上映会開催の意味について伝えることをめざした。親しい間でもふだんはなかなか自分の団体について伝えることがなかったメンバーも、今回のことで伝えることができ、共感を得た。中学校の先生に今回の映画についてご紹介したことで、教育の現場で障がい者についての理解を啓発することの必要性を知っていただけた。先生が生徒に話をする機会がもててよかったと聞いた。若竹ミュージカルのメンバーの方のなかに杉並区在住の方がいらして、さざんかとのつながりを深めることができた。		
【自己評価】		
<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった		

4 事業の公開と「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。


普及活動等	チラシを区内区民センターに置かせていただいたり、地域コムに情報を掲載し、事業について公開した。杉並区NPO支援基金については、当日の主催者挨拶のなかで話をしたり、プログラムに記載をした。アンケート回答者31名のうち、17名がこれまで支援基金について「知らなかった」と回答しており、その方たちに支援基金について知る機会の提供ができた。
-------	--

5 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	今回の上映会実施においての思いは、知的障がい者への理解啓発であり、それに向けた活動は当団体がミッションとして持っているものである。このミッションがあるので、地域に向けた活動として知的障がいの方と一緒に楽しむ「ざんかハイキング」を2006年度から行っている。団体としてはこのような活動を今後も行っていきたい。地域に向けた活動の実施にあたっては資金づくりが課題であるので、助成金情報にアンテナを張っていきたい。
----------	---

6 活動状況について







7 収支決算

事業費	243,518	補助金額	144,000
-----	---------	------	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	19,800	24,518	
	参加費・資料代等			
	その他の収入	75,000	75,000	チケット収入 500円×150名 = 75,000
	NPO支援基金助成	144,000	144,000	
	計	238,800	243,518	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	35,000	33,411	監督講演料:33,411円
	旅費		8,000	交通費 1,000円×8名 = 8,000円 若竹ミュージカル劇団員(交流会参加への交通費)
	備品費・消耗品費	12,000	10,270	チラシ印刷代 3,888円+4,630円 = 8,518円 用紙代:577円+755円+420円
	役務費		4,710	チラシ発送:950円 チラシ郵送費:3,760円
	使用料・賃借料	143,950	170,300	フィルム使用料:105,000円 勤労福祉会館使用料(午後・前延長):36,000円+10,800円 備品及び施設使用料:11,000円 西荻地区区民センター第3・4集会室使用料:7,500円
	その他の経費	47,850	16,827	交流会飲食 パン代:2,220円+2,620円+1,800円=6,640円 飲み物代:1,424円 お菓子代:1,803円 会議手当:870円×延8名 = 6,960円
	計	238,800	243,518	